

# 国保税基金9億円使って引き下げを



来年度から広域化となる国民健康保険。埼玉県は3回目の試算を公表しました。久喜市が県に支払う納付金は約43億円(国保税のもとに

なる額)一人あたりにすると102,395円。久喜市の平成28年度の実績は99,965円(調定額)ですから、2,430円高い金額です。

## 一般会計からの繰り入れや基金の活用を

しかし、久喜市が国保会計に、県平均ぐらいの「その他繰り入れ」を実施すれば、引き上げすることなく、引き下げも十分可能です。基金も9億円あります。高すぎて払いきれない世帯が多い中、引き上げは絶対許されません。

県は市町村の収支を均衡させる期間を「6年」と目標を立てましたが、困難な場合「市の実態を踏まえた設定」と柔軟な考え方も示しています。

国保滞納者が全国で312万世帯15.9%に達しています。国の負担を元に戻し増額すること。市は市民の暮らしを守る姿勢が求められます。



# 子どもたちを第一に考えた学校給食を

1日で1万2千食の調理能力を持つ巨大給食センターを理科大跡地に建設する計画を見直し「子どもたちを第一に考えた学校給食、巨大給食センター建設方針を見直し、既存の施設は生かしつつ自校調理方式への計画的な切り替えを求める請願書」が11月議会に提出されました。

市議団は請願書の採択を目指し全力を尽くします。沢山の方から「自校給食のほうがおいしい。アレルギーの対応がしっかりできる。手作りの給食を子どもたちには食べさせたい」「栗橋小学校の給食は残してほしい」などの声が寄せられました。

た。請願には「久喜市の学校給食を考える会」と協力者によって集められた1万筆近い署名が添えられています。紹介議員は「日本共産党久喜市議団・市民の政治をすすめる会」が共同しての提出となりました。

# デマンドタクシー実証実験

平成30年1月からデマンドタクシーによる実証実験が始まります。料金の半額(上限1500円)を市が負担。利用対象者は久喜市の方で75歳以上、障がい者手帳交付者など限定です。運行区域は久喜地区のみです。11月から申請を受付、窓口は生活安全課、各総合支所市民課です。今回は、今後のデマンド交通のあり方を検討していく実証実験と位置付けています。合併して8年が経過し、現行の制度も含め、久喜市全域をまたいでのデマンド交通を構築していく必要があります。

# 住民要求実現で住みよい久喜市を 日本共産党久喜市議団

## 自校方式も含め公正に検討を



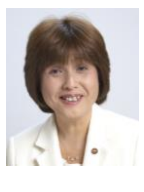
久喜市の子どもたちにこれからのどんな給食を提供するのかはとても大事な問題のはず。でも市は「安いから」との一点で強引に進めています。他の市では、「自校方式」も含め、公正に検討しています。上から決めず「市民集会を開いて情報公開と市民論議を」と提案しています。「温かいものは温かいままで」「手作りがおいしいの一番」「保護者や市民の意見を聞いて」このことを言い続けたと思います。それくらいの民主主義が久喜市にあっても良いのではないのでしょうか。杉野 おさむ

## 地域の願い実現へ



歩道の改修実現 いちよう通りの東地域「向地大橋」近くの歩道で転倒し、救急車を要請する事故が発生。建設部に速やかな改修を求め、安心して歩ける歩道となりました。同時に市内の状況を至急調査し、適正な管理を行うよう要請しました。中落堀川の浚渫を提案 五領橋付近は冠水する場所、葦の除草だけでなく、川底の土を取り除くことを要請。北陽高校西門側の冠水対策では「アリオ鷺宮調整池」の活用を求め、市は検討すると答えました。へいま 益美

## 仮称本田静六公園が縮小



新たなごみ処理施設の敷地面積に変更がありました。仮称本田静六記念公園の面積が削られることとなります。菖蒲のごみを燃やしながら新施設の補助金が受けられることがわかったとの理由ですが、なぜ始めに分からなかったのか疑問です。今後、ごみ収集車の搬入路、施設規模、処理方法、事業方式、環境問題等が具体化して来ます。影響を受ける近隣住民への説明はもちろん、市民合意で進める必要があります。新たな施設は最小限の焼却施設とし、使える施設は利用すべきです。渡辺 まさよ

## 財源はある 市民の暮らしを守れ



市民の暮らしを守るとき、財政調整基金を取りくずし、厳しい予算といたします。しかし平成28年度決算、「財政調整基金」は3億円増加し58億2000万円に、基金全部合わせると100億円を越えています。市民の暮らしを支援する財源は十分あると考えます。市民は消費税や医療費など負担が増えた一方、年金額は下がりがり、実質賃金も下がって苦しい生活です。共産党市議団は「暮らし守れ」との思いから、国保税、水道料金などの引き下げを求めています。石田 としはる